

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-32	高等学校	地理歴史科	世界史A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	世A318	要説世界史 改訂版		

1. 編修の基本方針		
<p>(1)平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「世界史 A」の目標、内容、内容の取扱いの趣旨に従ったが、高等学校における世界史学習上の問題点や現場における指導例などを考慮して、一部独自の構成を加えて本書を作成した。</p> <p>(2)学習指導要領世界史 A の内容である「(1) 世界史へのいざない」「(2) 世界の一体化と日本」「(3) 地球社会と日本」の趣旨に従って、章立てを行った。</p> <p>(3)編修にあたっては、世界史の知識を学び、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。</p> <p>(4)世界史 A は標準単位数 2 単位、16 世紀以降の近代・現代を中心に理解させる科目であるので、それ以前の叙述は簡潔に記述し、近現代史においてもできる限り精選して、平易な文章で、歴史の大きな流れがつかめることを主眼において編修した。</p> <p>(5)「はじめに」で本書の全体像を示し、各章で学び考察してほしい内容について述べた。また各節・中見出しの冒頭に「問いかけ」を設け、学習の目的が明確になるよう留意した。</p> <p>(6)歴史事象が地理的環境の上に展開してきたことを理解させるために、地理的な見方や考え方を養うよう、冒頭に「自然環境と文明」「同時代の世紀」を設けた。</p> <p>(7)日本人にとっての世界史という観点から、世界の歴史における日本の位置づけに配慮して記述した。</p>		
2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
同時代の世紀 はじめに	<p>* 気候や自然環境などの地理的条件が人類の生活・文化に与える影響について、多数の例を提示し、広い視野から考察させるよう配慮した (第1号)。</p> <p>* 「はじめに」で、世界史を学ぶ意義について分かりやすく説明し、現代の諸問題に関心を向け、幅広い知識と歴史的な視点で探究する姿勢をもつという目的を明示した (第1号)。</p>	折り込み 1～3ページ
序章 古代文明の形成 第 1 章 諸地域世界の形成と交流 1 東アジア世界・内陸アジア世界 世界と日本① 東アジア世界と日本 2 南アジア世界・東南アジア世界	<p>* 序章・第 1 章では、各地域の形成と発展、また各地域間での交流を示し、風土や文明の特徴を大づかみに理解させるよう心がけた (第1号)。</p> <p>* 「世界と日本」①では、日本と世界</p>	6～19、22～54 ページ 20～21ページ

3 西アジア世界 4 ヨーロッパ世界 5 諸文明を結ぶネットワーク	の歴史を関連させて理解し、日本の歴史や伝統・文化を客観的に把握すると同時に異文化を理解する態度を養えるよう配慮した（第5号）。	
第2章 結びつく世界 1 アジアの諸帝国 2 近世ヨーロッパの形成と発展 世界と日本② 世界商業の展開と日本	*第2章では、近世における各地域について要点を押さえて記述するとともに、世界がどのような点で結びついていったのかを具体的に示した（第1号）。 *「世界と日本」②では、日本と世界の歴史を関連させて理解し、日本の歴史や伝統・文化を客観的に把握すると同時に異文化を理解する態度を養えるよう配慮した（第5号）。	55～77ページ 78～79ページ
第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 1 革命の時代の到来 2 自由主義と国民主義の進展	*第3章では、近代欧米社会が形成された過程を、要点を押さえて記述した（第1号）。 *医療・福祉の面で貢献したナイティンゲールを取り上げた（第3号）。	80～106ページ 100ページ
第4章 アジア諸国の変貌 1 オスマン帝国の動揺と民族の自覚 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの変容と日本の動向 世界と日本③ 19世紀の世界の一体化と日本	*第4章・世界と日本③では、欧米勢力の進出によって、アジアの伝統的な社会がくずれていった過程を取りあげ、日本も積極的に世界と結びついていったことに言及した（第1号・第5号）。	80～119ページ
第5章 世界戦争と平和 1 帝国主義の成立と列強の情勢 2 世界分割とアジア・アフリカ 3 二つの世界大戦とその影響	*第5章では、帝国主義時代から二つの世界大戦にいたるまでの各地域および日本について、要点を押さえて記述した（第1号・第5号）。 *「person」では非暴力・不服従運動で社会に影響を与えたガンディーを取りあげた（第3号）。	120～155ページ 142ページ
第6章 三つの世界の形成 1 冷戦期の世界と日本 2 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題 3 米ソ両大国の動揺	*第6章では、冷戦時代の各地域について、要点を押さえて記述した（第1号）。	156～169ページ
第7章 グローバル化する世界 1 大国の動揺と国際経済の危機 2 社会主義の後退と冷戦の終結 3 グローバル化と多極化 4 地球社会への歩み	*第7章では、1970年代以降の各地域について、要点を押さえ、経済や社会に関する今日的な問題にも言及しながら記述した（第1号）。 *「person」の項目では、キング牧師、ゴルバチョフ、マンデラなど平和や人	170～188ページ 165、169、172、 173、180ページ

	種差別撤廃に尽力した人物について取りあげた（第3号）。 * 貧困のない社会の実現、平和の実現に向けて、現在おこっている問題が何か、どのような努力がなされているかを提示し、それらに寄与する態度を養うよう配慮した（第3号）。 * 人類と環境破壊についてふれ、環境の保全に向けてどのような努力がなされているかを提示し、それらに寄与する態度を養うよう配慮した（第4号）。	184～186ページ 188ページ
主題学習 これからの世界に生きるために	* 「主題学習」では生徒が自らの興味・関心に沿って主体的に課題を設定し探究できるよう、方法を明示し、課題例も多数提示した（第2号）。 * 主題学習「移民と移住先社会での生活」において、日本人移民と移住先社会の交流について課題を提示した（第5号）。 * 主題学習「世界戦争と国際社会」において、戦争を防ぎ平和な国際関係を築くための手段について主体的に考察させるよう課題を提示した（第3号）。 * 主題学習「核兵器と人類の生存」において、核兵器の破壊力や殺傷力などについて課題を提示し、武器開発と人類の生存について考察させるよう配慮した（第4号）。 * 主題学習「環境と人類の歴史」において、人類と環境破壊についてふれ、環境の保全に向けてどのような努力がなされているかを提示し、それらに寄与する態度を養うよう配慮した（第4号）。	189～197ページ 190～191ページ 192～193ページ 194～195ページ 196～197ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) 可能なかぎり平易な叙述に努め、また振り仮名や参照ページなどもていねいに入れるなど、生徒が自主的に、積極的に学習できるように工夫した。
- (2) 巻末に「基本用語解説」を設け、世界史学習の際に生徒の読解の助けとなるよう基本的な用語に解説を付した。
- (3) ほとんどのページに必ず一つ以上の図版を挿入し、生徒の興味・関心をひくよう工夫した。
- (4) 「読み解き図版・史料」では、絵画や写真から何が読み取れるか問題提起し、生徒自らの想像力を駆使して考察させ、歴史的視点から思考力を養うことができるよう配慮した。
- (5) 「person」では歴史上の人物をとりあげ、その事績を紹介することによって、個人と歴史の関係

に気づかせ、自らも社会に関わる姿勢を養うよう配慮した。
(6) 「コラム」を設け、本文の内容をよりいっそう深く理解できるようにした。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-32	高等学校	地理歴史科	世界史 A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 A 318	要説世界史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1)世界史学習の導入として、中学校社会科の内容との連続性に配慮しつつ、地理と世界史が関連していることを示す例を、本書冒頭で多数提示し、考察を促すよう工夫した。
- (2)中学校で学んだ日本史を、世界のなかの日本という世界史的視野から捉え直し、年表にまとめるなどの学習活動を通じて考察できるよう工夫した。
- (3)近現代史を中心とする「世界史 A」の特質を踏まえ、前近代のユーラシアの諸文明は、地域世界ごとに自然環境・生活・宗教などの特質をそれぞれ冒頭の2頁でまとめ、大観できるように配慮した。その後、世界が一体化に向かう過程については、近現代史を深く理解するために必要と思われる歴史事象を示しながら叙述した。
- (4)「主題学習」では、歴史的視点から主体的に課題を設定し探究させることを目的に、「主題の設定」「探究の活動」「発信の活動」について方法を明示した。さらに例として4つのテーマを取りあげ、それぞれ課題を多数提示することで、生徒の関心や個性に対応できるよう配慮した。
- (5)できるだけ平易な記述を心がけ、生徒の興味・関心をひくような図版を多数掲載した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
自然環境と文明 同時代の世紀 序章 古代文明の形成	(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史	見返し裏 折り込み 6～7ページ	1
第1章 諸地域世界の形成と交流 1 東アジア世界・内陸アジア世界 世界と日本① 東アジア世界と日本 2 南アジア世界・東南アジア世界 3 西アジア世界 4 ヨーロッパ世界 5 諸文明を結ぶネットワーク	(2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 (1) 世界史へのいざない イ 日本列島の中の世界の歴史	8～19、22 ～54ページ 20～21ペー ジ	14
第2章 結びつく世界 1 アジアの諸帝国 2 近世ヨーロッパの形成と発展 世界と日本② 世界商業の展開と日本	イ 結びつく世界と近世の日本 (1) 世界史へのいざない イ 日本列島の中の世界の歴史	55～77ペー ジ 78～79ペー ジ	10

第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 1 革命の時代の到来 2 自由主義と国民主義の進展	ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	80～106ページ	12
第4章 アジア諸国の変貌 1 オスマン帝国の動揺と民族の自覚 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの変容と日本の動向 世界と日本③ 19世紀の世界の一体化と日本	エ アジア諸国の変貌と近代の日本 (1) 世界史へのいざない イ 日本列島の中の世界の歴史	107～117ページ 118～119ページ	6
第5章 世界戦争と平和 1 帝国主義の成立と列強の情勢 2 世界分割とアジア・アフリカ 3 二つの世界大戦とその影響	(3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和	120～155ページ	11
第6章 三つの世界の形成 1 冷戦期の世界と日本 2 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題 3 米ソ両大国の動揺	ウ 三つの世界と日本の動向	156～169ページ	6
第7章 グローバル化する世界 1 大国の動揺と国際経済の危機 2 社会主義の後退と冷戦の終結 3 グローバル化と多極化 4 地球社会への歩み	エ 地球社会への歩みと課題	170～188ページ	6
主題学習 これからの世界に生きるために	オ 持続可能な社会への展望	189～197ページ	4
		計	70